

抽象美と柳宗悦

ABSTRACT
BEAUTY
AND
SOETSU
YANAGI

2026年 1月6日(火) - 3月10日(火) **日本民藝館**

当館創設者の柳宗悦（1889～1961）の晩年にあたる1950年代は、国立近代美術館で「抽象と幻想」展が開催されるなど、日本の美術界で抽象美術が大きな注目を集めた時期に当たります。そのような中、柳は雑誌『心』に「抽象美について」（1957年）を寄稿しました。工芸における「抽象美」について述べたこの一文は、後に『民藝』第63号の抽象紋特集（1958年3月）に発展し、柳が言うところの「古くて新しい抽象美」が、多くの図版によって具体的に提示されることになりました。染織では久留米絣や沖縄の絣、こぎん衣裳やアイヌ民族の衣裳、陶磁では日本の流し釉やイギリスのスリップウェアなどで構成されたこの特集では、北アメリカをはじめとする先住民族の工芸における「抽象美」もあわせて紹介されています。民族芸術（エスニックアート）や部族美術（トライバルアート）と言われるそれらの作品は、パブロ・ピカソなど欧米のモダン・アートの旗手たちが注目したことでも知られ、近代の美術と深い関わりがありますが、民藝運動を興した柳も同じく、そのような「原始的」な造形に注目していたことが分かります。本展は、特集に掲載された「抽象紋」の工芸を軸に、柳が見た「抽象美」とは何かを探る試みです。また、柳が関心を持った近代の絵画も併せて紹介し、近代美術に向けた柳の視線の一端を紹介します。

記念講演会 「抽象」をめぐる交差 一民藝館と近代美術館

花井久穂（東京国立近代美術館主任研究員）
2月7日(土) 18:00～19:30 料金・500円（入館料別、要電話予約）

学芸員による列品解説

1月25日(日) 14:00～〔約30分〕
申込不要、参加無料、入館料別

〔表面〕ブランケット 北アメリカ先住民 ナバホ族 毛、綴織 19世紀後半 99.8×60.7cm（『民藝』第63号原色版掲載） 1. 女（素描）ピエール・ピュヴィス・ド・シャヴァンヌ 紙、赤チョーク 19世紀 31.8×20.3cm ※白樺美術館旧蔵 2. スリップウェア皿 イギリス 18～19世紀 4.2×18.2cm 3. 紺地城文様夜具地 久留米 明治時代 19世紀 178.0×125.0cm（『民藝』第63号表紙掲載） 4. 御絵図 琉球王国時代 19世紀 27.5×38.8cm 5. 能装束 白地鱗模様摺箔（部分）江戸時代 18世紀（『民藝』第63号掲載） 6. 深鉢 長野県南安曇郡小倉村出土 縄文時代 BC2800年頃 52.7×39.0cm 7. 肩衣（部分）台湾原住民 バイワン族 苧麻・毛 19世紀（『民藝』第63号掲載） 8. タバ（部分）ポリネシア、ハワイ 樹皮・染料 18世紀後半～19世紀前半 9. 人物像石柱（部分）産地不詳 19～20世紀前半 10. タバ（部分）ポリネシア、サモア 樹皮・染料 19世紀



□10:00～17:00（入館は16:30まで） □月曜休館（祝日の場合は開館し、翌日休館） □一般 1,500円
大高生 800円 □西館公開日（旧柳宗悦邸）・会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜
（開館時間10:00～16:30、入館は16:00まで） ※変更が生じる場合がございます □TEL.03-3467-4527
□〒153-0041 東京都目黒区駒場4-3-33 □京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分

<https://www.mingeikan.or.jp/>

日本民藝館

次回展・創設90年記念 河井寛次郎と濱田庄司 2026年3月20日(金祝)～5月27日(水)

